

Kofax TotalAgility

構成ユーティリティ ガイド

バージョン: 7.8.0

日付: 2020-07-06

KOFAX

© 2020 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

目次

序文.....	5
関連ドキュメント.....	5
トレーニング.....	6
Kofax 製品のヘルプの入手.....	6
構成ユーティリティ.....	8
構成ユーティリティの実行.....	9
構成ユーティリティをサイレント モードで実行する.....	11
構成設定.....	12
オンプレミス.....	12
一般.....	12
Web.....	13
アプリ.....	16
Core Worker.....	17
エクスポート ワーカー.....	20
Transformation Server.....	20
ストリーミング.....	22
ジョブ スレッド プール.....	22
ライセンス.....	23
クラウド ストレージのキャプチャ.....	23
統合サービスのバインディング.....	24
オンプレミス マルチテナント.....	25
一般.....	25
TMS (テナント管理システム).....	27
Web.....	28
アプリ.....	31
Core Worker.....	32
ストリーミング.....	34
Transformation Server.....	34
ジョブ スレッド プール.....	36
ライセンス.....	36
クラウド ストレージのキャプチャ.....	37
統合サービスのバインディング.....	38
Transformation Server のみ.....	38
一般.....	38

Transformation Server.....	39
リアルタイム Transformation サービス.....	40
Transformation Server.....	41
統合サーバー.....	42
Web.....	42
Core Worker.....	43
ストリーミング.....	45
統合サービスのバインディング.....	45
レポートサーバー.....	46

序文

このガイドでは、構成ユーティリティを使用して、異なるタイプのインストールおよび展開のさまざまな構成ファイルの設定を更新する方法について説明します。

関連ドキュメント

Kofax TotalAgility の製品ドキュメント セットは、次の場所で入手できます。

<https://docshield.kofax.com/Portal/Products/KTA/7.8.0-dpm5ap0jk8/KTA.htm>

このガイドのほか、ドキュメント セットには次の項目が含まれています。

- Kofax TotalAgility 前提条件ガイド: TotalAgility をインストールするためのシステム要件、前提条件ユーティリティの実行手順、およびさまざまなインストール タイプのソフトウェア チェックリストを説明します。
- Kofax TotalAgility インストール ガイド: TotalAgility をインストールし構成する方法について説明します。
- Kofax TotalAgility 統合サーバー インストール ガイド: Kofax 統合サーバーをインストールし、他の製品と統合する方法について説明します。
- Kofax TotalAgility オンプレミス マルチテナント インストール ガイド: オンプレミス マルチテナント システムのインストールおよび構成方法について説明します。
- Kofax TotalAgility 管理者ガイド: TotalAgility インストールの構成および保守に関する情報を管理者に提供します。
- Kofax TotalAgility アーキテクチャ ガイド: オンプレミス、オンプレミス マルチテナンシー、Azure 環境のさまざまな展開を含む、TotalAgility アーキテクチャの概要について説明します。
- Kofax TotalAgility ベスト プラクティス ガイド: TotalAgility を使用してパフォーマンス、コスト、メンテナンス、可用性、およびセキュリティを改善する場合に従う必要があるベスト プラクティスについて説明します。
- Kofax TotalAgility 機能ガイド: TotalAgility の機能概要を説明します。
- Kofax TotalAgility 移行ガイド: 異なるバージョンからの TotalAgility アップグレードおよびアップグレード後の構成に関する情報を説明します。
- Kofax TotalAgility のヘルプ: TotalAgility を使用してビジネス ジョブとケースを設計し、リソースを割り当て、フォームを作成し、外部アプリケーションと統合するなどの詳細を説明します。TotalAgility アプリケーションから [ヘルプ] ボタンをクリックすることで、ヘルプにアクセスできます。
- Kofax TotalAgility Workspace のヘルプ: Workspace を使用してアクティビティ、ジョブ、およびリソースを管理する方法について説明します。TotalAgility Workspace からヘルプにアクセスするには、[ヘルプ] ボタンをクリックします。
- Kofax TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムのヘルプ: TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムを使用してテナントを作成および管理する方法について説明します。
- Kofax TotalAgility Web Capture コントロール ヘルプ: Web Capture コントロールを使用した、複数ページのドキュメントの作成、新しいフォルダでの新しいドキュメントの作成、誤ってスキャンされ

たページの削除などに関する詳細を提供します。また、Web Capture コントロール ツールバーで使用可能なボタンについても説明します。

- Kofax Analytics for TotalAgility 製品機能ガイド: ワークフローを通過するデータの追跡、プロセスとリソースの有効性の分析、ビジネス上の問題への対処に役立つダッシュボードの概要について説明します。
- Kofax TotalAgility テーブル: Kofax Analytics for TotalAgility で使用される Kofax TotalAgility テーブルおよびフィールドについて説明します。
- Kofax 製品からの移行ガイド: TotalAgility ファイルと Kofax 変換モジュール プロジェクトの TotalAgility への移行に関する情報を説明します。

トレーニング

Kofax では、お客様に Kofax TotalAgility ソリューションを最大限活用していただくことを目指して、教室でのトレーニングとコンピュータ ベースのトレーニングの両方を提供しています。利用可能なトレーニングの種類とスケジュールの詳細については、Kofax の Web サイト (www.Kofax.com) を参照してください。

Kofax 製品のヘルプの入手

[[Kofax Knowledge Base](#)] (Kofax ナレッジ ベース) リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Base (ナレッジ ベース) で情報を検索することをお勧めします。

[[Kofax Knowledge Base](#)] (Kofax ナレッジ ベース) を参照するには、[Kofax Web サイト](#)にアクセスして、ホームページで [サポート] を選択してください。

注 Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース) は Google Chrome、Mozilla Firefox または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

Kofax Knowledge Base (Kofax ナレッジ ベース) は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。
[**Search**] (検索) ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。
- 製品情報、設定の詳細、リリース情報などのドキュメント。
[[Kofax Knowledge Base](#)] (Kofax ナレッジ ベース) のホームページをスクロールして、製品ファミリーを見つけます。目的の製品ファミリー名をクリックして、関連記事の一覧を表示します。一部の製品ファミリーの場合は、関連記事を表示するために Kofax Portal (Kofax ポータル) の有効なログイン情報を入力する必要があります。
- [[Kofax Customer Portal](#)] (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (資格のあるカスタマー向け)
ページ上部にある [**Customer Support**] (カスタマー サポート) リンクをクリックしてから、[**Log in to the Customer Portal**] (カスタマー ポータルにログイン) をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (資格のあるパートナー向け)
ページ上部にある [**Partner Support**] (パートナー サポート) リンクをクリックしてから、[**Log in to the Partner Portal**] (パートナー ポータルにログイン) をクリックします。

- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。
[General Support] (一般サポート) セクションまでスクロールして、**[Support Details]** (サポートの詳細) をクリックし適切なタブを選択します。

構成ユーティリティ

TotalAgility 構成ユーティリティを使用すると、各ファイルを個別に更新する代わりに、複数の構成ファイルの設定を一度に変更または更新できます。このユーティリティはインストール メディアに収録されています。

次のいずれかのモードでユーティリティを実行できます。

- **[現在のインストールの構成]:** 現在の TotalAgility のインストールの構成設定を表示または変更して、現在のインストールを構成します。外部ファイルに設定を保存することも、外部ファイルから設定をロードすることもできます。
- **[Docker モード]:** コンテナの実行に使用できる Docker 設定ファイルを作成します。独自の値を入力するか、外部ファイルから値をロードすることができます。

ユーティリティを実行して現在のインストールを変更すると、さまざまなタブに設定が表示されます。設定は、展開タイプ (オンプレミス、オンプレミス マルチテナント、統合サーバー) およびインストールタイプ (Web、アプリケーション、Web/アプリー体型サーバー) に基づいています。次の構成ファイルが影響を受けます。

構成ファイル	場所
Web.config	..\Agility.Server.Web
Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config	..\CoreWorkerService
Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config	..\Transformation Server
Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe.config	..\Reporting
Agility.Server.StreamingService.exe.config	..\Agility.Server.Web for a Web server ..\CoreWorkerService for an Application server
Agility.Server.Core.ExportService.exe.config	..\CoreWorkerService
Agility.Server.Core.Executor.exe.config	..\CoreWorkerService ..\Agility.Server.Web ..\Reporting ..\Transformation Server

ユーティリティを実行して設定を Docker モードで変更すると、変更された設定で DockerSettings.env ファイルが生成されます。

IP アドレスを使用する SQL Server Management Studio を使用して、データベースがセットアップされたデータベース サーバーにリモートで接続できるかどうかを確認することをお勧めします。これにより、Docker コンテナが問題なくデータベース サーバーに接続されていることが確認されます。構成ユーティリティを実行するユーザーには、構成ファイル上の読み取りおよび書き込み権限と、TotalAgility データベース (オンプレミス環境用) およびマスター テナント データベース (オンプレミス マルチテナント環境用) へのアクセス権が必要です。

注

- 通常、マシン名は Docker コンテナ内で解決できないため、データベース サーバーには IP アドレスを使用することをお勧めします。
- ファイアウォールは、SQL Server へのリモート アクセスを許可する必要があります。
- ユーザーも Windows 認証なしでアクセスできるため、SQL Server 自体を混合モードでのリモートアクセスを許可するように構成する必要があります。
- 分割データベースを使用するには、メイン データベースと終了済みジョブのデータベースが同じデータベースを指し、同じデータベース サーバーに存在する必要があります。これは、MSDTC が現在 Docker コンテナで Microsoft によってサポートされていないためです。
- マシン名が必要な場合は、コンテナのマシン名を使用します。たとえば、以下の docker run コマンドでは、「container 1」はコンテナのマシン名です。

```
docker run -it --hostname "container1" --env-file "C:\Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -p 5000:80 kofaxop
```

- SQL Server に対して TCP/IP プロトコルを有効にする必要があります。

注 名前付きのパイプ プロトコルは機能しません。

構成ユーティリティの実行

1. インストールメディアの TotalAgility\Utilities\ConfigurationUtility にアクセスします。

注 ユーティリティを Docker モードで実行する場合、ユーティリティはその場所から実行されるため、インストール メディアのフォルダ構造を変更しないことをお勧めします。

2. KTAConfigurationUtility.exe を実行します。
[構成エディタ ツール] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. 次のいずれかを実行します。

オプション	説明
現在の TotalAgility のインストールの構成設定を表示または変更します。	<p>a. [現在のインストールの構成] (デフォルト) を選択します。</p> <p>b. [OK] をクリックします。 プロンプトで、サービスを自動的に停止するかどうかを確認します。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>注 設定を変更する場合は、サービスを自動的に停止するように選択することをお勧めします。設定を表示するだけの場合は、サービスを停止する必要はありません。</p> </div> <p>[構成] ウィンドウには、展開のタイプとインストールのタイプに基づいてタブごとにグループ化された設定が表示されます。</p> <p>c. [一般] タブには、複数の構成ファイルに共通の設定が表示されます。各タブをクリックし、必要に応じて変更を加えます。 または、既存のファイルから変更した設定を読み込むには、[テキスト ファイルからロード] を選択して、構成の変更がすでに行われているテキスト ファイルを選択します。</p> <p>d. 新しい構成設定をテキスト ファイルに保存し、必要なときに再利用するには、[テキスト ファイルに保存] をクリックします。</p> <p>e. [保存] をクリックします。 変更された設定を使用して構成ファイルが更新されます。 エラーを報告するログ ファイルが生成されます (エラーがある場合)。</p> <p>f. 更新された変更は、サービスが再起動されたときにのみ有効になります。プロンプトで [はい] をクリックして、サービスの自動再起動を確認します。</p>
Docker モードでユーティリティを実行します。	<p>a. [Docker モード] を選択します。</p> <p>b. [OK] をクリックします。 [構成] ウィンドウには、Docker コンテナ タイプに基づいたタブごとにグループ化された設定が表示されます。デフォルトでは、完全インストール タイプの設定が表示されます。</p> <p>c. [Docker コンテナ タイプ] リストで、コンテナ タイプを選択します。利用可能なコンテナ タイプは、[完全インストール] (デフォルト)、[Web]、[Web およびアプリ]、[アプリ]、[RTTS]、[レポート]、[Transformation Server]、[ライセンス] です。 選択した Docker コンテナ タイプに基づいて、さまざまなタブに設定が表示されます。</p> <p>d. [一般] タブには、複数の構成ファイルに共通の設定が表示されます。各タブをクリックし、必要に応じて変更を加えます。 または、既存のファイルから変更した設定を読み込むには、[テキスト ファイルからロード] を選択して、構成の変更がすでに行われているテキスト ファイルを選択します。</p> <p>e. 新しい構成設定をテキスト ファイルに保存し、必要なときに再利用するには、[テキスト ファイルに保存] をクリックします。</p> <p>f. [Docker 設定の保存] をクリックします。 DockerSettings.env ファイルは、変更された設定を使用して正常に生成されます。 エラーを報告するログ ファイルが生成されます (エラーがある場合)。</p>

構成ユーティリティをサイレント モードで実行する

構成ユーティリティは、Docker でサイレント モードで実行するか、または非 Docker モードで実行することができます。これにより、同じ構成を、同じ構成設定がある TotalAgility サーバーの複数のインスタンスに自動的に適用できます。たとえば、TotalAgility が展開された環境で、同じ構成設定を共有する複数の Core Worker サーバーがある場合があります。このような場合、サイレント モード構成を使用することで、同様な構成ファイルに構成を自動的に適用できます。

1. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを KTAConfigurationUtility.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
2. 次のいずれかを実行します。
 - ユーティリティを非 Docker モードで実行するには、KTAConfigurationUtility.exe `"/Silent" "<text file path>/ConfigSettings_OnPremise_FullInstall.txt" "false"` を実行します。この場合、ConfigSettings_OnPremise_FullInstall.txt は構成設定を含むテキスト ファイルです。
 - Docker モードでユーティリティを実行するには、KTAConfigurationUtility.exe `"/Silent" "<text file path>/ConfigSettings_OnPremise_FullInstall.txt" "true"` を実行します。この場合、ConfigSettings_OnPremise_FullInstall.txt は構成設定を含むテキスト ファイルです。

構成ユーティリティが自動的に実行され、非 Docker モードのテキスト ファイルの設定に従って構成設定が更新されます。Docker モードでは、テキスト ファイルで指定された設定で DockerSettings.env ファイルが生成されます。

エラーを報告するログ ファイルが生成されます (エラーがある場合)。

構成設定

このセクションでは、さまざまな展開およびインストール タイプの構成設定について説明します。

オンプレミス

このセクションでは、TotalAgility オンプレミスの展開タイプの構成設定について説明します。

一般

このタブには、TotalAgility オンプレミス インストール向けにインストールされているデータベースが表示されます。これらの設定は、Web サーバー、アプリケーション サーバー、Web/アプリ型サーバーのインストールに対して表示されます。

ラベル	構成設定	説明
[メイン]	MainDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのメイン データベース接続文字列を指定します。 注 データベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指名します。Docker ではマシン名がサポートされないため、Docker モードの場合はデータベース サーバーの IP アドレスを指定します。これをすべてのデータベースに対して実行します。
[監査]	AuditDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーの監査 データベース接続文字列を指定します。
[終了済みジョブ]	ArchiveDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのアーカイブ データベース接続文字列を指定します。
[データ レイヤー]	メイン データベースのテーブル SERVER_DATA から読み取ります。 注 メイン データベースの詳細を誤って入力した場合、またはメイン データベースにアクセスできない場合は、構成ツールの実行元でエラーが発生します。	TotalAgility データベース サーバーのデータ レイヤー データベース接続文字列を指定します。

ラベル	構成設定	説明
[レポート]	ReportingMainDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのレポート データベース接続文字列を指定します。
[ステージング]	ReportingStagingDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのレポート ステージング データベース接続文字列を指定します。

インストールのタイプに基づいて、設定の変更は次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config
- Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config
- Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config
- Agility.Server.Core.ExportService.exe.config

ドキュメント データベースの値は、SERVER_DATA.CEBPM_SETTINGS 列内で保持されます。

Web

このタブを使用できるのは、TotalAgility Web サーバーおよび Web/アプリ型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[コア サービスの場所]	CoreServicesLocation	<p>コア サービスの場所を指定します。</p> <p>注 この設定を使用できるのは、Web サーバーのインストールのみです。 SSL を有効にしている場合は、HTTPS コア サービスの場所を入力します。</p> <p>「コア サービスの場所の構成に関する追加情報」を参照してください</p>

ラベル	構成設定	説明
[クロス オリジン リソース共有]	CorsAllowedOrigins	<p>クロス オリジン リソース共有の実行を許可されたドメインを指定します。</p> <p>たとえば、2つのドメインがある場合に、アプリケーション サーバー上の Kofax TotalAgility SDK API へのアクセスを許可するには、次のように設定を構成します。</p> <pre><add key="CorsAllowedOrigins" value="http://sub-domain1.sub-domain2.domain1.com,http://domain2"/></pre> <p>すべてのドメインにアクセスを許可するには、次のように設定を構成します。</p> <pre><add key="CorsAllowedOrigins" value="*" /></pre> <p>注 「値 = ""」の設定は、CORS が有効になっていないことを意味します。</p>
[オンライン ヘルプの URL]	OnlineHelpURL	TotalAgility オンライン ヘルプの場所を指定します。
[展開されたフォームの縮小]	MinifyDeployedForms	Form Designer によって展開された Java スクリプト ファイルを縮小するかどうかを指定します。
[アンチ CSRF ターゲット ホスト名]	TargetHostName	<p>Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲット名 (Web サーバーの FQDN) を指定します。この名前は、TotalAgility Web サーバーのホスト/ドメイン名である必要があります。</p> <p>注 ホスト名は、ブラウザの URL で指定されたものと同じホスト/ドメインである必要があります。</p>
[アンチ CSRF ターゲット ポート番号]	TargetPortNo	<p>Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲットポート番号 (Web サイトのポート番号) を指定します。これは、TotalAgility Web サーバーのポート番号である必要があります。ポート番号を指定するのは、ブラウザの URL で必要な場合のみです。</p> <p>注 ポートは、ブラウザの URL で指定されたポート番号と同じである必要があります。</p>

ラベル	構成設定	説明
[認証] <ul style="list-style-type: none"> • 手動ログオンを使用する HTTP • 手動ログオンを使用する HTTPS • Windows 認証を使用する HTTP • Windows 認証を使用する HTTPS • 手動および Windows 認証を使用する HTTP • 手動および Windows 認証を使用する HTTPS 	「system.serviceModel/bindings」の「security」セクションを参照してください。	サーバーに設定する認証モードを指定します。 注 <ul style="list-style-type: none"> • 認証モードを HTTP から HTTPS またはその逆に変更する前に、IIS で SSL を有効にする必要があります。そうしないと、サーバーが保護されていない状態のままになる可能性があります。また、coreserviceslocation および Streaming サービスのベース アドレスを更新する必要があります。 • 手動および Windows 認証タイプを使用するには、IIS で匿名認証モードと Windows 認証モードの両方を有効にする必要があります。 • 認証タイプを手動および Windows 認証に変更すると、Windows 認証が失敗した場合に手動ログオンにリダイレクトされます。
[Cookies にホストプレフィックスを使用する]	UseHostPrefixforCookies	[Cookies にホストプレフィックスを使用する]を有効にします。このブラウザ機能を使用すると、TotalAgility Cookie 名の前に「__HOST-」を付加して、Cookie のセキュリティを高めることができます。Cookie 名がこのフラグで始まる場合、サポートブラウザの Cookie に対して追加のブラウザ ポリシーがトリガーされます。「__Host」というプレフィックスがついた Cookie は、これが設定されている同じドメインからのみアクセスできます。つまり、サブドメインでは Cookie 値を上書きできなくなります。また、HTTPS サイトからのみ Cookie にアクセスできるようになります。これにより、攻撃者が安全ではない偽装サイトを使用してセキュアな Cookie を上書きした場合でも、Cookie が保護されます。

設定の変更は、次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config

コア サービスの場所の構成に関する追加情報

非 Docker モードでは、Web サーバーでコア サービスの場所を構成するときに、以下の例に示すようにインストール中に場所を設定します。

- **非 SSL:** http://<アプリサーバー コンピュータ名>/<TotalAgilityサイト名>/services/core
- **SSL** https://<アプリサーバー コンピュータ名>/<TotalAgilityサイト名>/services/core

Docker モードでは、構成ユーティリティを使用して、ホストマシン名とアプリケーション サーバーのコンテナ ポート番号を指定することにより、場所を設定できます。そうすることで、アプリ コンテナの IP

アドレスが変更された場合に、アプリ コンテナまたは Web コンテナのホスト ファイルまたは DNS エントリを更新する必要がなくなります。例:

- 非 **SSL**: `http://<アプリサーバー コンピュータ名>:5000/<TotalAgilityサイト名>/services/core`
(5000 はアプリケーション サーバー コンテナのポート番号です)
- **SSL**: `https://<アプリサーバー コンピュータ名>:5000/<TotalAgilityサイト名>/services/core`
(5000 はアプリケーション サーバー コンテナのポート番号)

アプリサーバー名は Web サーバー上で解決する必要があります。これらのサーバーが同じドメインにある場合、この処理は自動的に行われます。必要に応じて、Web サーバー上のホスト ファイルを更新するか、DNS サーバーを使用して、この処理を手動で行うことができます。

- 非 Docker モードの場合は、アプリケーション サーバー名の IP アドレスを追加します。
- Docker モードの場合は、ホストマシン名の IP アドレスを追加します。

アプリ

このタブを使用できるのは、TotalAgility アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ一体型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[回復モードのセッション ID]	RecoveryModeSessionId	ユーザーがフェデレーション セキュリティで解決できない問題があるときに、フェデレーション セキュリティを回復して、TotalAgility Designer にログインできるようにする場合に使用します。
[Transformation Server ポート]	TSExternalServicePortForSyncProcessing	この設定は、ローカルな Transformation Server インスタンスにアクセスするためのポート番号を指定します。(デフォルト値: 9001)
[KCM サーバー URL]	CCMServerURL	KCM(Kofax Communication Manger) サーバーの URL を次の形式で入力します。 <code>http(s)://<KCMServer>:<Portnum></code> KCM サーバーの IP アドレスとポート番号を指定します。
[KCM プロキシ URL]	CCMProxyURL	KCM サーバーと通信するために KCM コントロールが使用する KCM プロキシの場所を指定します。

ラベル	構成設定	説明
[認証] <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 注 この設定は、TotalAgility アプリケーション サーバーのインストールでのみ利用可能です。 </div> <ul style="list-style-type: none"> • 手動ログオンを使用する HTTP • 手動ログオンを使用する HTTPS • Windows 認証を使用する HTTP • Windows 認証を使用する HTTPS 	「system.serviceModel/bindings」の「security」セクションを参照してください。	サーバーに設定する認証モードを指定します。 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 注 認証モードを HTTP から HTTPS に変更する前に、IIS で SSL を有効にする必要があります。そうしないと、サーバーが保護されていない状態のままになる可能性があります。 </div>

設定の変更は、次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config
- Agility.Server.Core.ExportService.exe.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config
- Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe.config

Core Worker

このタブを使用できるのは、TotalAgility アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[ワーカー タスクのポーリング 間隔]	CoreWorkerIntervalInSeconds	システムが期限内のメモリ内のワーカー タスクをチェックする頻度を指定します。
[データベース ワーカー タスクのポーリング間隔]	CoreWorkerDBIntervalInSeconds	システムが適切なデータベース ワーカー タスクをポーリングする頻度を指定します。
[ワーカー タスクのタイムアウト 間隔]	CoreWorkerResetTaskIntervalInSeconds	システムがタイムアウトしたワーカー タスクをチェックする頻度を指定します。 デフォルトでは、ワーカー タスクごとに割り当てられるタイムアウト間隔は 300 秒です。
[ポーリング タイムアウト アクティビティのリセット間隔]	CoreWorkerResetActivityIntervalInSeconds	Core Worker がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。

ラベル	構成設定	説明
[アクティビティのタイムアウト間隔]	CoreWorkerActivityTimeoutIntervalInMinutes	アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されません。
[インポートする最大メッセージ/ドキュメント数]	MaximumNumberOfMessagesToImport	ドキュメントの取り込み用にインポートするドキュメントまたはメッセージの最大数を指定します。
[最大作業キュー タスク サイズ]	CoreWorkerWorkQueueSize	Core Worker が取得できるタスクの最大数を指定します。
[最大評価ジョブ タスク サイズ]	MaximumNumberOfEvaluateJobTasksToTake	取得するジョブ評価タスクの最大数を指定します。
[アクティビティの順序]	CoreWorkerActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限 優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[ロックする最大アクティビティ数]	MaximumNumberOfActivitiesToLock	Core Worker が自動アクティビティの実行をポーリングするときにロックする自動アクティビティの数を指定します。 デフォルト値は 32 です。
[Import Connector 名]	ImportConnectorName	管理者は、Core Worker が使用するインポート接続を明示的に指定できます。(デフォルト: すべて) この設定は、複数の Core Worker が設定されている場合に便利です。

ラベル	構成設定	説明
[パフォーマンス ログイングが有効]	PerformanceLoggingEnabled	<p>ログ ファイルにログインするパフォーマンス カウンターを有効にします。</p> <p>パフォーマンス監視カウンターの詳細については、次のガイドを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Kofax TotalAgility 管理者ガイドのパフォーマンス カウンターの使用方法に関するセクション。 • Kofax TotalAgility インストール ガイドのパフォーマンス監視カウンターの追加に関するセクション。
[スレッド プール モニタリング 間隔]	CoreWorkerThreadPoolMonitoringIntervalInSeconds	<p>スレッド プールが内部スレッドを監視する頻度を定義します。現在、監視はスレッドのタイムアウトをチェックするために行われ、自動アクティビティ タイプのスレッド プールにのみ適用されます。</p> <p>デフォルト値は 60 です。</p>
[取得するワーカー削除タスクのアーカイブ]	ArchiveDeleteWorkerTasksToRetrieve	<p>実行のために取得する、アーカイブ ジョブと DeleteItem 非システムレベルのワーカー タスクの数を指定します。</p> <p>デフォルト値は 50 です。</p>
[アーカイブ 削除の再試行間隔 (秒単位)]	ArchiveDeleteRetryIntervalInSeconds	<p>アーカイブ ジョブおよび DeleteItem 非システムレベルワーカー タスクを実行する次の期日を計算するための最大期間を秒単位で指定します。</p> <p>デフォルト値は 0 です。</p>
[自動アクティビティ プール ID]	AutoActivitiesPoolId	<p>この設定は、自動アクティビティのスレッド プール ID を指定します。</p>
[自動アクティビティ プール名]	AutoActivitiesPoolName	<p>この設定は、自動アクティビティのスレッド プール名を指定します。</p>
[ジョブ スレッド プール サイズのアップグレード]	UpgradeJobsThreadPoolSize	<p>この設定は、アップグレードジョブのスレッド プールのサイズを指定します。スレッド プールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。</p>

設定の変更は `Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config` にのみ適用されます。

エクスポート ワーカー

このタブを使用できるのは、TotalAgility アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[アクティビティの順序]	CoreWorkerActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[ポーリング タイムアウト アクティビティのリセット間隔]	CoreWorkerResetActivityIntervalInSeconds	Core Worker がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。
[アクティビティのタイムアウト間隔]	CoreWorkerActivityTimeoutIntervalInMinutes	アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されます。
[パフォーマンス ログギングが有効]	PerformanceLoggingEnabled	ログ ファイルにログインするパフォーマンス カウンターを有効にします。 パフォーマンス監視カウンターの詳細については、次のガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Kofax TotalAgility 管理者ガイドのパフォーマンス カウンターの使用方法に関するセクション。 • Kofax TotalAgility インストール ガイドのパフォーマンス監視カウンターの追加に関するセクション。

設定の変更は、次の構成ファイルに適用されます。

- Agility.Server.Web\bin\Agility.Server.ExportConnector.exe.config
- CoreWorkerService\Agility.Server.Core.ExportWorker.Host.exe.config

Transformation Server

Transformation Server は、TotalAgility のインストール時にインストールするか、個別にインストールします。TotalAgility のインストール時にリアルタイムの Transformation Service モードを選択した場合、Transformation Server を別のモードでインストールすることもできます。

このタブを使用できるのは、Transformation Server アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ型サーバーのインストール環境用に TotalAgility をインストールするときに TotalAgility をインストールする場合のみです。

Transformation Server を個別にインストールする場合、構成設定を変更するには、「[Transformation Server のみ](#)」を参照してください。

TotalAgility をリアルタイム Transformation サービス モードでインストールするように選択した場合、構成設定を変更するには、「[リアルタイム Transformation サービス](#)」を参照してください。

ラベル	構成設定	説明
[プール名]	PoolName	Transformation Server が処理する場合の元になるプールを指定します。
[スロットの最大数]	MaxProcessingSlotsNumber	アイドル状態のバックグラウンド プロセスを除いて、同時に実行できる CPU 集約型のバックグラウンド プロセスの数を指定します。(デフォルト: 0) 処理スロットの最大数は、次の式を使用して決定されます。 $(\text{int})\text{Math.Round}(\text{Environment.ProcessorCount} * 1.25)$
[アクティビティの順序]	TransformationServiceActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> アクティビティの優先度 = 0 アクティビティの期限 = 1 アクティビティの優先度期限 = 2 アクティビティの期限の優先度 = 3 ジョブの優先度 = 4 ジョブの期限 = 5 ジョブの優先度期限 = 6 ジョブの期限の優先度 = 7
[予約済みスロットの数]	ReservedSlotsNumber	プッシュされた優先度の高いアクティビティ (同期呼び出しなど) 用に予約されている Transformation Server のスロットの数を入力します。
[TCP/IP ポート番号]	次のセクションの baseAddress のポート番号を参照します。system.serviceModel/services/service/host/baseAddresses	Transformation サービスの baseAddress のポート番号を指定します。 Transformation Server のポート番号を入力します。
[ポーリング タイムアウトアクティビティのリセット間隔 (分単位)]	TakenActivitiesResetTimeoutInMinutes	この設定は、Transformation Server がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。
[アクティビティのタイムアウト間隔 (分単位)]	ResetActivitesIntervalMinutes	この設定は、アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されます。

ラベル	構成設定	説明
[オンライン学習の有効化]	OnlineLearningExecutionEnabled	選択した場合、この Transformation Server インスタンスのオンライン学習タスクの処理が有効になります。
[同期アクティビティの処理を有効にする]	EnableSynchronousCalls	選択した場合、同期「プッシュ」呼び出しの処理が有効になります。
[同期アクティビティのみを処理する]	SynchronousOnlyProcessing	選択した場合、Transformation Server は同期キャプチャプロセスにのみ使用され、自動アクティビティをポーリングしないように指定されます。

設定の変更は、Kofax.CEBPM.CPUserver.ServiceHost.exe.config にのみ適用されます。

ストリーミング

このタブは、すべての展開およびインストール タイプで使用できます。

ラベル	構成設定	説明
[ベース アドレス]	次のセクションの下の baseAddress を参照してください。system.serviceModel/services/service/host/baseAddresses。	Streaming サービスのベース アドレスを次の形式で入力します。 http(s)://<Server>:<Portnum> サーバーの FQDN とポート番号を指定します。

設定の変更は Agility.Server.StreamingService.exe.config にのみ適用されます。

ジョブ スレッド プール

ジョブ スレッドでは、ジョブの評価、例外ジョブの生成、Kofax インポート コネクタによる取り込みなど、複数の操作が一度に実行されます。複数の操作は、運用システムにボトルネックを引き起こす可能性があります。たとえば、アーカイブするジョブが数千ある場合、ジョブ スレッドがジョブのアーカイブでビジーになるため、取り込みとジョブの評価に時間がかかります。カスタム ジョブ スレッド プールを追加すると、スループットの向上とバックグラウンド タスクの優先順位付けに役立ちます。

カスタム ジョブ スレッド プールを追加し、スレッド プール内のスレッドの数を指定し、ワーカー タスクをスレッド プールに割り当てることができます。

このタブを使用できるのは、TotalAgility アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[ID]	Id	スレッド プールの ID を入力します。
[サイズ]	サイズ	スレッド プールのサイズを入力します。
[追加]	該当なし	[追加] をクリックして、新しいスレッド プールを追加します。
[更新]	該当なし	[更新] をクリックして、選択したスレッド プールを更新します。

ラベル	構成設定	説明
[削除]	該当なし	[削除] をクリックして、選択したスレッドプールを削除します。
[ArchiveJobTask]	WorkerTasks	ArchiveJobTask をスレッドプールに割り当てます。
[EvaluateJobTask]	WorkerTasks	EvaluateJobTask をスレッドプールに割り当てます。
[CreateExceptionTask]	WorkerTasks	CreateExceptionTask をスレッドプールに割り当てます。
[CreateJobTask]	WorkerTasks	CreateJobTask をスレッドプールに割り当てます。
[IngestSystemTask]	WorkerTasks	IngestSystemTask をスレッドプールに割り当てます。
[CaptureBatchTask]	WorkerTasks	CaptureBatchTask をスレッドプールに割り当てます。
[DeleteItemTask]	WorkerTasks	DeleteItemTask をスレッドプールに割り当てます。
[ProcessStateActionTask]	WorkerTasks	ProcessStateActionTask をスレッドプールに割り当てます。

設定の変更は `Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config` にのみ適用されます。

ライセンス

ラベル	構成設定	説明
[プライマリ]	ServerID	設定値が 1 の場合は、プライマリライセンスサーバーを指定します。
[バックアップ]	ServerID	設定値が 2 の場合は、バックアップライセンスサーバーを指定します。

クラウドストレージのキャプチャ

このタブは、TotalAgilityWeb/アプリー体型サーバーのインストールでのみ利用可能です。

デフォルトでは、キャプチャデータは SQL Server に保存されます。クリーンインストールでは、キャプチャクラウドストレージタブには、キャプチャデータストレージタイプポストインストールを変更できないため、読み取り専用モードで次のストレージタイプが表示されます。接続文字列とキーのみを変更できます。TotalAgility 7.8.0 へのアップグレードについては、デフォルトのストレージを Windows Azure または Amazon ストレージタイプに変更できます。ストレージタイプを変更すると、選択したクラウドストレージタイプを元に戻したり、変更したりすることはできません。

- [SQL Server]
- [Windows Azure Blob ストレージ]
- [Amazon S3]

クリーンインストールでは、必要に応じて、ストレージタイプについて、次のクラウド アカウント設定を変更できます。TotalAgility のアップグレード時には、クラウド アカウント設定を構成する必要があります。

注 クラウド ストレージの資格情報を変更する前に、すべての Kofax TotalAgility サーバーのすべての TotalAgility サービスを停止し、変更後にサービスを再起動する必要があります。

ラベル	構成設定	説明
Windows Azure Blob ストレージ		
[アカウント接続文字列]	ServerID	Blob ストレージ サービスに接続するための接続文字列。
[コンテナ名]	ServerID	ストレージ サービスのコンテナ名。 注 バケット名は変更できません。
Amazon S3		
[アクセス キー]	ServerID	クラウド ストレージに設定されたアクセス キー。
[シークレット キー]	ServerID	クラウド ストレージのシークレット アクセス キー。
[領域]	ServerID	S3 リージョン システム名。
[バケット名]	ServerID	クラウド ストレージ ユニット。 注 バケット名は変更できません。

統合サービスのバインディング

このタブを利用できるのは、Docker コンテナ タイプが完全インストール、Web とアプリ、アプリの場合に対応する Docker モードのみです。

デフォルトでは、このタブのすべての設定が選択されているわけではありません。このタブを使用して、次の統合サービス バインディングに対して SSL を有効にします。

ラベル	構成設定	説明
[Exchange 通知サービス]	BasicHttpBinding_Exchange NotificationService	Exchange 通知サービスに対して SSL を有効にします。
[SharePoint コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_SharePoint CommunicatorService	SharePoint コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[TRIM コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_TRIM CommunicatorService	TRIM コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[DynamicsAX コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX CommunicatorService	DynamicsAX コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[DynamicsAX 統合サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX IntegrationService	DynamicsAX 統合サービスに対して SSL を有効にします。

ラベル	構成設定	説明
[Insight データ サービス]	BasicHttpBinding_InsightData サービス	Insight データ サービスに対して SSL を有効にします。

設定の変更は、TotalAgility web.config に適用されます。

オンプレミス マルチテナント

このセクションでは、TotalAgility オンプレミスのマルチテナント展開タイプの構成設定について説明します。

一般

このタブには、TotalAgility オンプレミス インストール向けにインストールされているデータベースが表示されます。これらの構成設定は、Web サーバー、アプリケーション サーバー、Web/アプリ型サーバーのインストールに対して表示されます。

ラベル	構成設定	説明
[テナント]	MainDBConnectionString	<p>テナント データベース名を指定します。</p> <p>注 データベース サーバーに接続するには、SQL Server 認証を使用する必要があります。</p> <p>ユーザー名とパスワードは、テナント管理 Web サイトで利用可能なテナント接続文字列を使用して更新する必要があります。テナントのユーザー名には、デフォルトで「live」または「dev」が追加されます (例: <tenant1_live/dev>)。</p>
[データ センター]	TenantDBConnectionString	<p>TotalAgility データベース サーバー向けのデータ センター データベース接続文字列を指定します。</p> <p>注 データベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指名します。Docker ではマシン名がサポートされないため、Docker モードの場合はデータベースサーバーの IP アドレスを指定します。</p>
[展開タイプ]	DeploymentType	ライブや開発など、セットアップする環境のモードを指定します。

ラベル	構成設定	説明
[TotalAgility ホスト名 (ライブ)]	TotalAgilityHostNameLive	TotalAgility ライブ環境向けのホスト名を指定します。 注 オンプレミスのマルチテナントがテナント管理システムとともにインストールされている場合、ライブ ホスト名はマスター テナント データベースに対してのみ更新されます。それ以外の場合、本番ホスト名は Web.config に対して更新されません。 「 ホスト名 live およびホスト名 div に関する追加情報 」を参照してください
[TotalAgility ホスト名 (開発)]	TotalAgilityHostNameDev	TotalAgility 開発環境向けのホスト名を指定します。 注 オンプレミスのマルチテナントがテナント管理システムとともにインストールされている場合、開発ホスト名はマスター テナント データベースに対してのみ更新されます。それ以外の場合、開発ホスト名は Web.config に更新されます。 「 ホスト名 live およびホスト名 div に関する追加情報 」を参照してください
[マルチテナント パフォーマンス カウンタ]	PerformanceCountersMultitenanted	各テナントにマルチテナント パフォーマンス カウンタ インスタンスを作成できるかどうかを指定します。

テナント データベースは、次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config
- Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config
- Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config
- Agility.Server.Core.ExportService.exe.config
- Agility.Server.Core.Executor.exe.config

ホスト名は、次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config

ホスト名 live およびホスト名 div に関する追加情報

非 Docker モードで、LiveHostName および DevHostName を使用して TotalAgility にアクセスする場合、名前の形式は `hostname:port number` にする必要があります。

ホスト名: ロードバランサと公開 DNS を使用している場合、ホスト名のテキストには `kta.app.com` などの公開 DNS を指定する必要があります。それ以外の場合、ホスト名は TotalAgility Web サーバーがインストールされているマシンのホスト名になります。

ポート番号:

- TotalAgility が非標準の TCP ポートにインストールされている場合は、ポート番号を使用します。
- TotalAgility がデフォルトのポートにインストールされている場合、ポート番号は無視できます。

Docker モードで、LiveHostName および DevHostName を使用して TotalAgility コンテナにアクセスする場合、テキストの形式は次のようにします。host name : any TCP port number open for the incoming connection on the host machine。ホスト名を取得するには、次の手順を実行します。

1. ホスト名で、コマンド プロンプトに移動します。
2. ホスト名を入力します。

コマンドは、「MyHostMachine」などのホスト名を返します

ポート番号を取得するには、着信接続が許可されている TCP ポート番号を使用します。ただし、コンテナの作成中は、ポート転送に同じポート番号を使用してください。たとえば、ライブ/開発ホスト名に MyHostMachine: 5000 が指定されているとします。この場合、ポート転送は、実行コマンドで `switch -p` を使用してポート 5000 で実行する必要があります。docker run --env-file "DockerSettings.env " -p 5000:443 -it kofax/ kta_771.

ロードバランサと公開 DNS を使用している場合、ホスト名のテキストに `kta.app.com` などの公開 DNS を指定する必要があります。

TMS (テナント管理システム)

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミスのマルチテナント アプリケーション サーバーと Web/アプリ一体型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	設定	説明
[マスター テナント]	MasterTenantDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのマスターテナント データベース接続文字列を指定します。 注 データベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指名します。
[送信メール サーバー]	SendMailServer	SMTP サーバーの電子メールを指定します。
[送信メール ユーザー名]	SendMailUserName	メール サーバーのユーザー名を指定します。
[送信メール パスワード]	SendMailPassword	メール サーバーのパスワードを指定します。
[送信メール 送信元アドレス]	SendMailFromAddress	メール サーバーからの送信者のアドレスを指定します。
[送信メール BCC リスト]	SendMailBCCList	メール サーバーからの非表示の受信者アドレスを指定します。
[送信メール SSL の有効化]	SendMailEnableSSL	メール サーバーで SSL を有効にするか無効にするかを指定します。

ラベル	設定	説明
[アンチ CSRF ターゲット ホスト名]	TargetHostName	Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲット名 (Web サーバーの FQDN) を指定します。この名前は、TotalAgility Web サーバーのホスト/ドメイン名にする必要があります、ブラウザの URL で指定されたホスト/ドメインと一致する必要があります。
[アンチ CSRF ターゲット ポート番号]	TargetPortNo	Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲットポート番号 (Web サイトのポート番号) を指定します。ポートは、TotalAgility Web サーバーのポート番号にする必要があります、ブラウザの URL で指定されたポートと一致する必要があります。ここでポート番号を指定するのは、ブラウザの URL で必要な場合のみです。

設定の変更は、次の構成ファイルに適用されます。

- Agility.Server.Web\web.config
- Agility.Server.Web.TenantManagement\web.config

Web

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス マルチテナント Web サーバーおよび Web/アプリケーション型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[コア サービスの場所]	CoreServicesLocation	<p>コア サービスの場所を指定します。</p> <p>注 この設定を使用できるのは、Web サーバーのインストールのみです。SSL を有効にしている場合は、HTTPS コア サービスの場所を入力します。</p> <p>「コア サービスの場所の構成に関する追加情報」を参照してください</p>

ラベル	構成設定	説明
[クロス オリジン リソース共有]	CorsAllowedOrigins	<p>クロス オリジン リソース共有の実行を許可されたドメインを指定します。</p> <p>たとえば、2つのドメインがある場合に、アプリケーション サーバー上の Kofax TotalAgility SDK API へのアクセスを許可するには、次のように設定を構成します。</p> <pre><add key="CorsAllowedOrigins" value="http://sub-domain1.sub-domain2.domain1.com,http://domain2"/></pre> <p>すべてのドメインにアクセスを許可するには、次のように設定を構成します。</p> <pre><add key="CorsAllowedOrigins" value="*" /></pre> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>注 「値 = "*"」の設定は、CORS が有効になっていないことを意味します。</p> </div>
[オンライン ヘルプの URL]	OnlineHelpURL	TotalAgility オンライン ヘルプの場所を指定します。
[展開されたフォームの縮小]	MinifyDeployedForms	Form Designer によって展開された Java スクリプト ファイルを縮小するかどうかを指定します。
[アンチ CSRF ターゲット ホスト名]	TargetHostName	Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲット名 (Web サーバーの FQDN) を指定します。名前は、TotalAgilityWeb サーバーのホスト / ドメイン名で、ブラウザの URL で指定されたホスト / ドメインと一致させます。
[アンチ CSRF ターゲット ポート番号]	TargetPortNo	Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲットポート番号 (Web サイトのポート番号) を指定します。ポートは、TotalAgilityWeb サーバーのポート番号であり、ブラウザの URL で指定されたポートと一致する必要があります。ここでポート番号を指定するのは、ブラウザの URL で必要な場合のみです。

ラベル	構成設定	説明
[認証] <ul style="list-style-type: none"> • 手動ログオンを使用する HTTP • 手動ログオンを使用する HTTPS • Windows 認証を使用する HTTP • Windows 認証を使用する HTTPS • 手動および Windows 認証を使用する HTTP • 手動および Windows 認証を使用する HTTPS 	「system.serviceModel/bindings」の「security」セクションを参照してください。	サーバーに設定する認証モードを指定します。 注 <ul style="list-style-type: none"> • 認証モードを HTTP から HTTPS またはその逆に変更する前に、IIS で SSL を有効にする必要があります。そうしないと、サーバーが保護されていない状態のままになる可能性があります。また、coreserviceslocation および Streaming サービスのベース アドレスを更新する必要があります。 • 手動および Windows 認証タイプを使用するには、IIS で匿名認証モードと Windows 認証モードの両方を有効にする必要があります。 • 認証タイプを手動および Windows 認証に変更すると、Windows 認証が失敗した場合に手動ログオンにリダイレクトされます。
[Cookies にホスト プレフィックスを使用する]	UseHostPrefixforCookies	[Cookies にホスト プレフィックスを使用する] を有効にします。このブラウザ機能を使用すると、TotalAgility Cookie 名の前に「__HOST-」を付加して、Cookie のセキュリティを高めることができます。Cookie 名がこのフラグで始まる場合、サポート ブラウザの Cookie に対して追加のブラウザ ポリシーがトリガーされます。「__Host」というプレフィックスがついた Cookie は、これが設定されている同じドメインからのみアクセスできます。つまり、サブドメインでは Cookie 値を上書きできなくなります。また、HTTPS サイトからのみ Cookie にアクセスできるようになります。これにより、攻撃者が安全ではない偽装サイトを使用してセキュアな Cookie を上書きした場合でも、Cookie が保護されます。

設定の変更は、次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config

コア サービスの場所の構成に関する追加情報

オンプレミスのマルチテナント展開の場合、実行時に、以下の例に示すように、テナント名がコア サービスの場所に動的に追加されます。

- **非 Docker**
 - **非 SSL:** `http://<テナント名.アプリサーバー コンピュータ名>/<TotalAgilityWebsiteName>/services/core`
 - **SSL** `https://<テナント名.アプリサーバー コンピュータ名>/<TotalAgilityWebsiteName>/services/core`
- **Docker**
 - **非 SSL:** `http://<テナント名.アプリサーバー コンピュータ名>:5000/<TotalAgilityサイト名>/services/core`
(5000 はアプリケーション サーバー コンテナのポート番号)
 - **SSL** `https://<テナント名.アプリサーバー ホスト コンピュータ名>:5000/<TotalAgilityWebsiteName>/services/core`
(5000 はアプリケーション サーバー コンテナのポート番号)

Kofax TotalAgility はアプリと Web サーバーの両方で {TenantName.AppServerName} を解決する必要があります。Web/アプリ サーバー上のホスト ファイルまたは DNS エントリを更新します。ワイルドカード DNS を使用することをお勧めします。

- 非 Docker モードの場合、アプリケーション サーバーの IP アドレスを追加します。
- Docker モードの場合、TenantName.HostMachineName の IP アドレスをコンテナに追加します。

注 コア サービスの場所では、アプリケーション サーバーの IP アドレスではなくマシン名を指定する必要があります。マシン IP は、オンプレミスのマルチテナント展開では機能しません。Kofax TotalAgility は {TenantName.MachineIP} ではなく、「本番/開発ホスト名」の設定を介して App/Web サーバー上の {TenantName.MachineName} を解決します。

アプリ

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミスのマルチテナント アプリケーション サーバーと Web/アプリ一体型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[回復モードのセッション ID]	RecoveryModeSessionId	ユーザーがフェデレーション セキュリティで解決できない問題があるときに、フェデレーション セキュリティを回復して、TotalAgility Designer にログオンできるようにする場合に使用します。
[Transformation Server ポート]	TSExternalServicePortForSyncProcessing	この設定は、ローカルな Transformation Server インスタンスにアクセスするためのポート番号を指定します。デフォルト値は 9001 です。

ラベル	構成設定	説明
[KCM サーバー URL]	CCMServerURL	この設定は KCM (Kofax Communication Manger) サーバーの URL を指定します。 KCM サーバー URL を次の形式で入力します。http(s)://<CCMServer>:<Portnum>。 KCM サーバーの IP アドレスとポート番号を指定します。
[KCM プロキシ URL]	CCMProxyURL	KCM コントロールが KCM サーバーと通信するために使用する KCM (Kofax Communication Manger) プロキシの場所を指定します。

設定の変更は `Agility.Server.Web\web.config` にのみ適用されます。

Core Worker

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミスのマルチテナント アプリケーション サーバーと Web/アプリ型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[自動アクティビティスレッドプールサイズ]	CoreWorkerMaxAutoActivityThreadPoolSize	この設定はアクティビティスレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。
[ジョブスレッドプールサイズ]	CoreWorkerMaxJobThreadPoolSize	この設定は、ジョブスレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。
[プロセスアクティビティスレッドプールサイズ]	CoreWorkerMaxProcessActivitiesThreadPoolSize	プロセスアクティビティスレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。
[ワーカー タスクのポーリング間隔]	CoreWorkerIntervallInSeconds	システムが期限内のメモリ内のワーカー タスクをチェックする頻度を指定します。
[ワーカー タスクのタイムアウト間隔]	CoreWorkerResetTaskIntervallInSeconds	システムがタイムアウトしたワーカー タスクをチェックする頻度を指定します。 デフォルトでは、ワーカー タスクごとに割り当てられるタイムアウト間隔は 300 秒です。

ラベル	構成設定	説明
[ポーリング タイムアウト アクティビティのリセット間隔]	CoreWorkerResetActivityIntervalInSeconds	<p>Core Worker がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。</p> <p>デフォルトでは、ワーカー タスクごとに割り当てられるリセット アクティビティ間隔は 300 秒です。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;"> <p>注 Azure 環境の場合、ワーカー タスクごとに割り当てられるデフォルトのリセット アクティビティ間隔は 900 秒です。TotalAgility Designer でプロセス内のアクティビティの想定期間を設定することにより、テナントは引き続きデフォルト値を上書きできます。詳細については、『TotalAgility のヘルプ』を参照してください。</p> </div>
[アクティビティのタイムアウト間隔]	CoreWorkerActivityTimeoutIntervalMinutes	<p>アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティがタイムアウトしたとき、アクティビティは、対応するタスクが実行される時のみ解放されます。</p>
[インポートする最大メッセージ/ドキュメント数]	MaximumNumberOfMessagesToImport	<p>ドキュメントの取り込み用にインポートするドキュメントまたはメッセージの最大数を指定します。</p>
[最大作業キュー タスクサイズ]	CoreWorkerWorkQueueSize	<p>Core Worker が取得できるタスクの最大数を指定します。</p>
[最大評価ジョブ タスクサイズ]	MaximumNumberOfEvaluateJobTasksToTake	<p>取得するジョブ評価タスクの最大数を指定します。</p>
[アクティビティの順序]	CoreWorkerActivityOrder	<p>処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7

ラベル	構成設定	説明
[パフォーマンス ログ ングが有効]	PerformanceLoggingEnabled	ログ ファイルにロギングするパフォーマンス カウンターを有効にします。 パフォーマンス監視カウンターの詳細については、次のガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 『Kofax TotalAgility 管理者ガイド』のパフォーマンス カウンターの使用方法に関するセクション。 『Kofax TotalAgility インストール ガイド』のパフォーマンス監視カウンターの追加に関するセクション。
[スレッド プール モニ タリング間隔]	CoreWorkerThreadPoolMonitoringInterval InS econds	スレッド プールが内部スレッドを監視する頻度を定義します。現在、監視はスレッドのタイムアウトをチェックするために行われ、自動アクティビティタイプのスレッド プールにのみ適用されます。 デフォルト値は 60 です。
[自動アクティビティ プール ID]	AutoActivitiesPoolId	この設定は、自動アクティビティのスレッド プール ID を指定します。
[自動アクティビティ プール名]	AutoActivitiesPoolName	この設定は、自動アクティビティのスレッド プール名を指定します。

設定の変更は `Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config` にのみ適用されます。

ストリーミング

このタブは、すべての展開およびインストール タイプで使用できます。

ラベル	構成設定	説明
[ベース アドレス]	セクション <code>system.serviceModel/ services/service/host/ baseAddresses</code> の <code>baseAddress</code> を参照します。	Streaming サービスのベース アドレスを次の形式で入力します。 <code>http(s)://<Server>:<Portnum></code> サーバーの FQDN とポート番号を指定します。

設定の変更は `Agility.Server.StreamingService.exe.config` にのみ適用されます。

Transformation Server

TotalAgility のインストール時に Transformation Server をインストールするか、Transformation Server を個別にインストールできます。このタブを使用できるのは、TotalAgility アプリケーション サーバーおよび Web/アプリー体型サーバーのインストール環境用に Transformation Server をインストールする場合のみです。

Transformation Server を個別にインストールした場合は、「[Transformation Server のみ](#)」を参照してください。

ラベル	構成設定	説明
[プール名]	PoolName	Transformation Server が処理する場合の元になるプールを指定します。
[スロットの最大数]	MaxProcessingSlotsNumber	アイドル状態のバックグラウンド プロセスを除いて、同時に実行できる CPU 集約型のバックグラウンド プロセスの数を指定します。(デフォルト: 0) 処理スロットの最大数は、次の式を使用して決定されます。 $(int) \text{Math.Round}(\text{Environment.ProcessorCount} * 1.25)$
[アクティビティの順序]	TransformationServiceActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[予約済みスロットの数]	ReservedSlotsNumber	プッシュされた優先度の高いアクティビティ (同期呼び出しなど) 用に予約されている Transformation Server のスロットの数を入力します。
[TCP/IP ポート番号]	次のセクションの baseAddress のポート番号を参照します。system.serviceModel/services/service/host/baseAddresses	Transformation サービスの baseAddress のポート番号を指定します。 Transformation Server のポート番号を入力します。
[ポーリング タイムアウト アクティビティのリセット 間隔 (分単位)]	ResetActivitesIntervalMinutes	タイムアウトしたアクティビティを Transformation Server がチェックする頻度を指定します。
[アクティビティのタイム アウト間隔 (分単位)]	TakenActivitiesResetTimeoutInMinutes	アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されません。
[オンライン学習の有効化]	OnlineLearningExecutionEnabled	選択した場合、この Transformation Server インスタンスのオンライン学習タスクの処理が有効になります。
[同期アクティビティの処理を有効にする]	EnableSynchronousCalls	選択した場合、同期「プッシュ」呼び出しの処理が有効になります。
[同期アクティビティのみを処理する]	SynchronousOnlyProcessing	選択した場合、Transformation Server は同期キャプチャ プロセスにのみ使用され、自動アクティビティをポーリングしないように指定されます。

設定の変更は `Kofax.CEBPM.CPUserver.ServiceHost.exe.config` にも適用されます。

ジョブ スレッド プール

カスタム ジョブ スレッド プールを追加し、スレッド プール内のスレッドの数を指定し、ワーカー タスクをスレッド プールに割り当てることができます。

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミスのマルチテナント アプリケーション サーバーと Web/アプリ型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[ID]	Id	スレッド プールの ID を入力します。
[サイズ]	サイズ	スレッド プールのサイズを入力します。
[追加]	該当なし	[追加] をクリックして、新しいスレッド プールを追加します。
[更新]	該当なし	[更新] をクリックして、選択したスレッド プールを更新します。
[削除]	該当なし	[削除] をクリックして、選択したスレッド プールを削除します。
[ArchiveJobTask]	WorkerTasks	ArchiveJobTask をスレッド プールに割り当てます。
[EvaluateJobTask]	WorkerTasks	EvaluateJobTask をスレッド プールに割り当てます。
[CreateExceptionTask]	WorkerTasks	CreateExceptionTask をスレッド プールに割り当てます。
[CreateJobTask]	WorkerTasks	CreateJobTask をスレッド プールに割り当てます。
[CaptureBatchTask]	WorkerTasks	CaptureBatchTask をスレッド プールに割り当てます。
[DeleteItemTask]	WorkerTasks	DeleteItemTask をスレッド プールに割り当てます。
[ProcessStateActionTask]	WorkerTasks	ProcessStateActionTask をスレッド プールに割り当てます。

設定の変更は `Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config` にも適用されます。

ライセンス

ラベル	構成設定	説明
[プライマリ]	ServerID	設定値が 1 の場合は、プライマリ ライセンス サーバーです。
[バックアップ]	ServerID	設定値が 2 の場合は、バックアップ ライセンス サーバーです。

クラウドストレージのキャプチャ

このタブは、TotalAgilityWeb/アプリー体型サーバーのインストールでのみ利用可能です。

デフォルトでは、キャプチャ データは SQL Server に保存されます。クリーン インストールでは、キャプチャ クラウド ストレージ タブには、キャプチャ データ ストレージ タイプ ポスト インストールを変更できないため、読み取り専用モードで次のストレージ タイプが表示されます。接続文字列とキーのみを変更できます。TotalAgility 7.8.0 へのアップグレードについては、デフォルトのストレージを Windows Azure または Amazon ストレージ タイプに変更できます。ストレージ タイプを変更すると、選択したクラウド ストレージ タイプを元に戻したり、変更したりすることはできません。

- **[SQL Server]**
- **[Windows Azure Blob ストレージ]**
- **[Amazon S3]**

クリーンインストールでは、必要に応じて、ストレージタイプについて、次のクラウド アカウント設定を変更できます。TotalAgility のアップグレード時には、クラウド アカウント設定を構成する必要があります。

注 クラウド ストレージの資格情報を変更する前に、すべての Kofax TotalAgilityサーバーですべてのTotalAgilityサービスを停止し、変更後にサービスを再起動する必要があります。

ラベル	構成設定	説明
[Windows Azure Blob ストレージ]		
[アカウント 接続文字列]	ServerID	Blob ストレージ サービスに接続するための接続文字列。 注 キャプチャー データ ストレージのコンテナ名は、インストーラによって自動的に作成されます。
[Amazon S3]		
[アクセス キー]	ServerID	クラウド ストレージに設定されたアクセス キー。
[シークレット キー]	ServerID	クラウド ストレージのシークレット アクセス キー。
[領域]	ServerID	S3 リージョン システム名。 注 キャプチャー データ ストレージのバケット名は、インストーラによって自動的に作成されます。
[バケット名]	ServerID	クラウド ストレージ ユニット。 注 バケット名は変更できません。

統合サービスのバインディング

このタブを利用できるのは、Docker コンテナ タイプが完全インストール、Web とアプリ、アプリの場合に対応する Docker モードのみです。

デフォルトでは、このタブのすべての設定が選択されているわけではありません。このタブを使用して、次の統合サービス バインディングに対して SSL を有効にします。

ラベル	構成設定	説明
[Exchange 通知サービス]	BasicHttpBinding_Exchange NotificationService	Exchange 通知サービスに対して SSL を有効にします。
[SharePoint コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_SharePoint CommunicatorService	SharePoint コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[TRIM コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_TRIM CommunicatorService	TRIM コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[DynamicsAX コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX CommunicatorService	DynamicsAX コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[DynamicsAX 統合サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX IntegrationService	DynamicsAX 統合サービスに対して SSL を有効にします。
[Insight データ サービス]	BasicHttpBinding_InsightData サービス	Insight データ サービスに対して SSL を有効にします。

設定の変更は、TotalAgility web.config に適用されます。

Transformation Server のみ

このセクションでは、Transformation Server を独立してインストールする場合の構成設定について説明します。

一般

このタブには、TotalAgility によって使用される Transformation Server データベース構成が表示されません。

ラベル	構成設定	説明
[メイン]	MainDBConnectionString	TotalAgilityデータベース サーバーのメイン データベース接続文字列を指定します。 注 データベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指名します。これをすべてのデータベースに対して実行します。

ラベル	構成設定	説明
[監査]	AuditDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーの監査データベース接続文字列を指定します。
[終了済みジョブ]	ArchiveDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのアーカイブ データベース接続文字列を指定します。
[ステージング]	ReportingStagingDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのレポート ステージング データベース接続文字列を指定します。
[データ センター]	TenantDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバー向けのデータ センター データベース接続文字列を指定します。 注 データベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指名します。 この設定を使用できるのは、マルチテナント展開のみです。
[展開タイプ]	DeploymentType	ライブや開発など、セットアップする環境のモードを指定します。 注 この設定を使用できるのは、マルチテナント展開のみです。

Transformation Server

ラベル	構成設定	説明
[プール名]	PoolName	Transformation Server が処理するプールを指定します。
[スロットの最大数]	MaxProcessingSlotsNumber	アイドル状態のバックグラウンド プロセスを除いて、同時に実行できる CPU 集約型のバックグラウンドプロセスの数を指定します。(デフォルト: 0) 処理スロットの最大数は、次の式を使用して決定されます。 $(\text{int})\text{Math}.\text{Round}(\text{Environment}.\text{ProcessorCount} * 1.25)$
[アクティビティの順序]	TransformationServiceActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7

ラベル	構成設定	説明
[予約済みスロットの数]	ReservedSlotsNumber	プッシュされた優先度の高いアクティビティ (同期呼び出しなど) 用に予約されている Transformation Server のスロットの数を入力します。
[TCP/IP ポート番号]	次のセクションの baseAddress のポート番号を参照します。system.serviceModel/services/service/host/baseAddresses	Transformation サービスの baseAddress のポート番号を指定します。 Transformation Server のポート番号を入力します。
[ポーリング タイムアウト アクティビティのリセット間隔 (分単位)]	ResetActivityIntervalInMinutes	タイムアウトしたアクティビティを Transformation Server がチェックする頻度を指定します。
[アクティビティのタイムアウト間隔 (分単位)]	TakenActivitiesResetTimeoutInMinutes	アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されます。
[マルチテナント展開]	IsMultitenantDeployment	展開がマルチテナントかオンプレミスかを示します。 注 選択した場合、使用している展開のタイプと関連付けられたデータベースをマルチテナントとしてインストールする必要があります。
[オンライン学習の有効化]	OnlineLearningExecutionEnabled	選択した場合、この Transformation Server インスタンスのオンライン学習タスクの処理が有効になります。
[同期アクティビティの処理を有効にする]	EnableSynchronousCalls	選択した場合、同期「プッシュ」呼び出しの処理が有効になります。
[同期アクティビティのみを処理する]	SynchronousOnlyProcessing	選択した場合、Transformation Server は同期キャプチャ プロセスにのみ使用され、自動アクティビティをポーリングしないように指定されます。

設定の変更は、Transformation Server\Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config にのみ適用されます。

リアルタイム Transformation サービス

このセクションでは、TotalAgility のインストール時にリアルタイム Transformation サービス モードを選択した場合の構成設定について説明します。

Transformation Server

ラベル	構成設定	説明
[プール名]	PoolName	Transformation Server が処理する元のプールを指定します。
[スロットの最大数]	MaxProcessingSlotsNumber	アイドル状態のバックグラウンド プロセスを除いて、同時に実行できる CPU 集約型のバックグラウンド プロセスの数を指定します。(デフォルト: 0) 処理スロットの最大数は、次の式を使用して決定されます。 $(\text{int})\text{Math}.\text{Round}(\text{Environment}.\text{ProcessorCount} * 1.25)$
[アクティビティの順序]	TransformationServiceActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[予約済みスロットの数]	ReservedSlotsNumber	プッシュされた優先度の高いアクティビティ (同期呼び出しなど) 用に予約されている Transformation Server のスロットの数を入力します。
[TCP/IP ポート番号]	次のセクションの baseAddress のポート番号を参照します。system.serviceModel/services/service/host/baseAddresses	Transformation サービスのベース アドレスのポート番号を指定します。 Transformation Server のポート番号を入力します。
[オンライン学習の有効化]	OnlineLearningExecutionEnabled	選択した場合、この Transformation Server インスタンスのオンライン学習タスクの処理が有効になります。
[同期アクティビティの処理を有効にする]	EnableSynchronousCalls	選択した場合、同期「プッシュ」呼び出しの処理が有効になります。 注 TotalAgility をリアルタイム Transformation サービス モードでインストールするように選択した場合、この設定は読み取り専用で表示されます。

ラベル	構成設定	説明
[同期アクティビティのみを処理する]	SynchronousOnlyProcessing	<p>選択した場合、Transformation Server は同期キャプチャ プロセスにのみ使用され、自動アクティビティをポーリングしないように指定されます。</p> <p>注 TotalAgility をリアルタイム Transformation サービス モードでインストールするように選択した場合、この設定は読み取り専用で表示されます。</p>

設定の変更は、Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config にのみ適用されます。

統合サーバー

このセクションでは、TotalAgility 統合サーバーの構成の設定について説明します。

Web

このタブは TotalAgility 統合サーバー アプリケーション サーバー、Web サーバー、Web/アプリ型サーバーのインストールに利用できます。

ラベル	構成設定	説明
[コア統合サービスの場所]	CoreIntegrationServicesLocation	コア統合サービスの場所を指定します。
[コア サービスの場所]	CoreServicesLocation	<p>コア サービスの場所を指定します。</p> <p>注 SSL を有効にしている場合は、HTTPS コア サービスの場所を入力します。</p>
[オンライン ヘルプの URL]	OnlineHelpURL	TotalAgility オンライン ヘルプの場所を指定します。
[アンチ CSRF ターゲット ホスト名]	TargetHostName	<p>Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲット名 (Web サーバーの FQDN) を指定します。この名前は TotalAgility Web サーバーのホスト / ドメイン名である必要があります。</p> <p>注 ホスト名は、ブラウザで指定されたものと同じホスト / ドメインである必要があります。</p>

ラベル	構成設定	説明
[アンチ CSRF ターゲット ポート番号]	TargetPortNo	<p>Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲット ポート番号 (Web サイトのポート番号) を指定します。これは TotalAgility サーバーのポート番号である必要があります。ブラウザの URL で必要な場合にのみ、ここでポート番号を指定してください。</p> <p>注 ポートは、ブラウザの URL で指定されたポート番号と同じである必要があります。</p>
[Cookies にホスト プレフィックスを使用する]	UseHostPrefixforCookies	<p>[Cookies にホスト プレフィックスを使用する] を有効にします。このブラウザ機能を使用すると、TotalAgility Cookie 名の前に「_HOST-」を付加して、Cookie のセキュリティを高めることができます。Cookie 名がこのフラグで始まる場合、サポート ブラウザの Cookie に対して追加のブラウザ ポリシーがトリガーされます。「_Host」というプレフィックスがついた Cookie は、これが設定されている同じドメインからのみアクセスできます。つまり、サブドメインでは Cookie 値を上書きできなくなります。また、HTTPS サイトからのみ Cookie にアクセスできるようになります。これにより、攻撃者が安全ではない偽装サイトを使用してセキュアな Cookie を上書きした場合でも、Cookie が保護されます。</p>

設定の変更は `Web.config` にのみ適用されます。

Core Worker

このタブを使用できるのは TotalAgility 統合サーバー アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ一体型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[コア統合サービスの場所]	CoreIntegrationServicesLocation	コア統合サービスの場所を指定します。
[コア サービスの場所]	CoreServicesLocation	<p>コア サービスの場所を指定します。</p> <p>注 SSL を有効にしている場合は、HTTPS コア サービスの場所を入力します。</p>
[自動アクティビティスレッドプール サイズ]	CoreWorkerMaxAutoActivityThreadPoolSize	アクティビティスレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。

ラベル	構成設定	説明
[ワーカー タスクのポーリング間隔]	CoreWorkerIntervalInSeconds	システムが期限内のメモリ内のワーカータスクをチェックする頻度を指定します。
[ワーカー タスクのタイムアウト間隔]	CoreWorkerResetTaskIntervalInSeconds	システムがタイムアウトしたワーカータスクをチェックする頻度を指定します。 デフォルトでは、ワーカー タスクごとに割り当てられるタイムアウト間隔は 300 秒です。
[ポーリング タイムアウト アクティビティのリセット間隔]	CoreWorkerResetActivityIntervalInSeconds	Core Worker がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。
[アクティビティのタイムアウト間隔]	CoreWorkerActivityTimeoutIntervalInMinutes	アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されます。
[インポートする最大メッセージ/ドキュメント数]	MaximumNumberOfMessagesToImport	ドキュメントの取り込み用にインポートするドキュメントまたはメッセージの最大数を指定します。
[アクティビティの順序]	CoreWorkerActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[Import Connector 名]	ImportConnectorName	管理者は、Core Worker が使用するインポート接続を明示的に指定できます。(デフォルト: すべて) この設定は、複数の Core Worker が設定されている場合に便利です。
[パフォーマンス ログギングが有効]	PerformanceLoggingEnabled	ログ ファイルにログギングするパフォーマンス カウンターを有効にします。 パフォーマンス監視カウンターの詳細については、次のガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 『Kofax TotalAgility 管理者ガイド』の パフォーマンス カウンタの使用方法に関するセクション。 • 『Kofax TotalAgility インストール ガイド』の パフォーマンス監視カウンターの追加に関するセクション。

ラベル	構成設定	説明
[スレッド プール モニタリング間隔]	CoreWorkerThreadPoolMonitoringInterval InSeconds	スレッド プールが内部スレッドを監視する頻度を定義します。現在、監視はスレッドのタイムアウトをチェックするために行われ、自動アクティビティ タイプのスレッド プールにのみ適用されます。 デフォルト値は 60 です。
[マルチテナント パフォーマンス カウンタ]	PerformanceCountersMultitenanted	各テナントにマルチテナント パフォーマンス カウンター インスタンスを作成できるかどうかを指定します。
[自動アクティビティ プール ID]	AutoActivitiesPoolId	この設定は、自動アクティビティのスレッドプール ID を指定します。
[自動アクティビティ プール名]	AutoActivitiesPoolName	この設定は、自動アクティビティのスレッドプール名を指定します。

設定の変更は `Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config` および `CoreWorkerService\Agility.Server.Core.ExportService.exe.config` に適用されます。

ストリーミング

このタブは TotalAgility 統合サーバー アプリケーション サーバー、Web サーバー、Web/アプリ型サーバーのインストールに利用できます。

ラベル	構成設定	説明
[ベース アドレス]	次のセクションの下の <code>baseAddress</code> を参照してください。 <code>system.serviceModel/services/ service/host/baseAddresses。</code>	Streaming サービスのベース アドレスを次の形式で入力します。 <code>http(s)://<Server>:<Portnum></code> サーバーの FQDN とポート番号を指定します。

設定の変更は `Agility.Server.StreamingService.exe.config` にのみ適用されます。

統合サービスのバインディング

このタブを利用できるのは、Docker コンテナ タイプが完全インストール、Web とアプリ、アプリの場合に対応する Docker モードのみです。

デフォルトでは、このタブのすべての設定が選択されているわけではありません。このタブを使用して、次の統合サービス バインディングに対して SSL を有効にします。

ラベル	構成設定	説明
[Exchange 通知サービス]	BasicHttpBinding_Exchange NotificationService	Exchange 通知サービスに対して SSL を有効にします。
[SharePoint コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_SharePoint CommunicatorService	SharePoint コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[TRIM コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_TRIM CommunicatorService	TRIM コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。

ラベル	構成設定	説明
[DynamicsAX コミュニケータ サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX CommunicatorService	DynamicsAX コミュニケータ サービスに対して SSL を有効にします。
[DynamicsAX 統合サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX IntegrationService	DynamicsAX 統合サービスに対して SSL を有効にします。
[Insight データ サービス]	BasicHttpBinding_InsightData サービス	Insight データ サービスに対して SSL を有効にします。

設定の変更は、TotalAgility web.config に適用されます。

レポート サーバー

このセクションでは、レポート サーバーで使用されるデータベース構成について説明します。

ラベル	構成設定	説明
[メイン]	MainDBConnectionString	TotalAgilityデータベース サーバーのメイン データベース接続文字列を指定します。 注 データベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指名します。これをすべてのデータベースに対して実行します。
[監査]	AuditDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーの監査データベース接続文字列を指定します。
[終了済みジョブ]	ArchiveDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのアーカイブ データベース接続文字列を指定します。
[データ レイヤー]	メイン データベースのテーブル SERVER_DATA から読み取ります。	TotalAgility データベース サーバーのデータ レイヤー データベース接続文字列を指定します。
[レポート]	ReportingMainDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのレポート データベース接続文字列を指定します。
[ステージング]	ReportingStagingDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのレポート ステージング データベース接続文字列を指定します。

設定の変更は Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe にのみ適用されます。